

社会人のための情報システム誌  
— 経営近代化のシステム研究 —

# Computer Report

# 2

2018 No.761

## 3 はじめの言葉

## 4 存在感を薄くしている

### システム部門の将来

田原文夫

部分最適か、全体最適かの議論が昨今、どれだけ論じられているだろうか。こういうテーマがある／あり得るとしているかどうかということではない。実際に、そういう論議を必要とした上で、そういう議論を前提にしたシステム開発現場に身を置くチャンス（機会）に遭遇しているだろうか。システム部門がコンピュータ資源の単なる営繕部門としての機能を期待されているのか、企業等ユーザー組織の根幹的行動様式を司るシステム全体像の開発部門としての機能を期待されているかである。言うまでもなく、システム部門に委譲される権限の範囲／大きさに大きく関係する話である。目の前に様々なコンピュータリソースがふんだんに存在する昨今、リソースの営繕部門としてのシステム部門への期待感は薄れている。社外のシステムベンダー／サプライヤーの存在も豊富だということも背景にある。組織内において、システム部門の存在感が従前に比べて希薄になっているのは否めない事実である。特に、組織内全体の最適化を委ねられるほどの権限を委譲されるケースも激減していると言っても過言でない。システム部門への信頼性の欠如現象だと言っていいだろう。果たしてこのままでいいのか、それを論じる議論も少なくなってきたようだ。

## 10 情報社会を考える その89

### 情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

#### 脆弱な仮想通貨環境

ほんの数十分のうちに時価 580 億円もの仮想通貨が、取引所という仮想通貨取引所兼保管場所から消えてしまった。不正引き出しがされてしまったというのだ。しかし正確／厳密に言えば、不正引き出しではなく、手続き的には正式に引き出され、別口座に移管されてしまった。すなわち、暗号キーを使っての正々堂々とした引き出し／送金行為だったとも言えるからである。今回の事件、仮想通貨そのものというよりも、仮想通貨の取引システム環境の不備／未整備からくる問題なのだが、金融決済エスタブリッシュメントである既存金融機関および行政関連機関からは、それ見たことかの声／圧力が強くなりそうだ。ちなみに、仮想通貨先進国を標榜する姿勢を見せている我が日本政府であるが、中国政府などは真逆に、仮想通貨の取引停止をしている。

## 12 デジタルガバメント DG 1

### デジタル政府の展開 その1

水田 浩

デジタル化は人々の生活の質を向上させる。2018 年 1 月 16 日に日本政府もデジタル  
WebCR2018/2

ガバンメント実行計画を e ガバンメント閣僚会議で決定した。この計画は 28 年 1 月 16 日から 2023 年 3 月 31 日までの計画である。2018 年上半期を目途に各府省庁における中長期の戦略的な計画を策定をする。電子政府は ICT を使って、政府側から国民に行政サービスをより早く、より安く、より良くするのが目的だがデジタルガバンメントは顧客（国民、企業、職員）側から政府の行政サービスを探し易く、繋がりやすく、何時でも何処からでも誰でも使えることを目的としている。

## 1 9 連載 アーキテクチャ論 (82)

### アーキテクチャの落とし穴の検出

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 大学院 情報学研究科 教授

本稿では、アーキテクチャの欠陥について、コンポーネント間の関係に着目して考察する。カーネギーメロン大学の SEI の Delange が重要安全ソフトウェアにおけるアーキテクチャのわなと落とし穴について解説している。パターンが潜在的に持つ欠陥を議論している。たとえば、センサーコンポーネントとモニターコンポーネントからなるアーキテクチャでは、センサーからデータを送信する能力がモニターによるセンサーデータを受信する能力よりも大きい場合、センサーデータの欠落が発生する。

## 2 7 連載 情報システム考

### 企業情報システムの変遷と行方 第 5 回

Dr.ベスト

昨今、クラウド、ビッグデータ、AIなどをベースとした情報システムが社会的規模で普及する中、それらのシステムを各企業規模すなわち自社（社員）レベルでコントロールできない状況へと進展している。換言すれば、「情報システムのコントロール不可、すなわちアウトソーシング依存現象」である。企業にとって情報システムは、企業の神経／血液そのものであり、コンサルタントや弁護士に限定された範囲での業務を委託したり、物流や警備をアウトソーシングするような対象のものではないはずである。

## 3 3 IT 新時代とパラダイム・シフト

### 第 9 9 回 コインチェック事件で表面化した

#### 仮想通貨取引所と金融庁の問題点

根本忠明

昨年の仮想通貨バブルが新年に持ち越され、新春はどうなるかと世間の関心を集める最中に、仮想通貨取引所大手のコインチェックがハッカーに襲われ 580 億円が消失した。この事件は、同取引所の過失だけでは済まない。仮想通貨法、匿名系通貨の許認可、金融庁の姿勢も問われる事件なのである。今回は、この問題を取り上げることにしたい。

## 3 5 続インテリジェンスへのいざない 97

### 笑えない悪い冗談 トランプのフェイク大賞

今井 武

大統領就任以前どころか、選挙活動中から世界中を大騒ぎさせてきている米国トランプ大統領が、就任後一年の今回もまたフェイクニュース大賞なるものを発表して、世界中を騒がせている。早い話が、自分に都合の悪い報道内容を「フェイク（嘘）情報だ」といちいち言い分けしてきたものを改めて別の形で現したものだ。これはこれで、また大騒ぎだ。

## 3 8 連載 四字熟語カトレーニング

すぎやまちヒロ

## セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における  
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで  
株式会社 日本経営科学研究所  
ComputerReport編集部

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

# CR 選書のご案内

## CR選書

**改訂版**  
**データ・ウェアハウス**

定価 本体 2,800円＋税 送料(〒300)  
A5版 289頁

石井義興 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 EHCが必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータウェアハウスサポート
第二章 データベースとデータウェアハウスの相違点	第八章 データウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータウェアハウス	第九章 データウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネストド・リレーショナル・モデル	第十章 データウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正則化の問題点とデータウェアハウス	
第六章 データウェアハウス管理システム	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**実践データ・ウェアハウス**  
**OLAP**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)  
A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 これまでのEHCにできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構築
第三章 CodePlusによるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析集積の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

## CR選書

**消費者行動論**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)  
A4版 381頁

田原文夫 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動ピクセス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動ピクセス)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

aism 研究活動報告  
**インターネットセキュリティの**  
**落とし穴**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)  
A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修  
aism情報セキュリティ・マテリアル研究会 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM KLEZの蔓延と国家記録
第二章 aism情報セキュリティ研究会の発足	第十二章 メールが騙かGLI
第三章 認知される電子署名方式の基本論	第十三章 任意ネットワークのための認証サーバーの構築
第四章 署名を拒められたCodeRedワーム	第十四章 第五のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 1万バグの常識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 WWW(バーチャル)ブレイクワザ	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2002年度の事業活動	第十八章 ネット「まぼろし」作戦にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の脅威と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

## CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！  
**トップ主導の**  
**情報システム革新**

定価 本体 3,000円＋税 送料(〒300)  
A4版 271頁

高田 顯重 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム監査	第八章 変革対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**計量モデルの構造と解法**  
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 2,000円＋税 送料(〒300)  
A4版 212頁

安田 聖 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分割方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 分散式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計算方法	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

## CR選書

**『いざ！というときの得広報』**  
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,400円＋税 送料(〒300)  
A5版 280頁

加藤 洋一 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

■ 広域ビジネスの獲得条件	■ 売玉も企業体質
■ ニュースリリースは東方向優先	■ 守るも決めるも広報が窓口
■ 文字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のタイミング	＜付＞ 記事とうまく付き合う十六の鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**ザ・ワールドリンク**  
がんばれ、国際グローバルサーバー  
—IBM社会に挑んだ国際情報システム作りの物語—

定価 本体 1,800円＋税 送料(〒300)  
A5版 269頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 発端	第十一章 日本製子法の選い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米岡チーム編組の依頼
第三章 新しシステムへの働き	第十三章 新しな陣っ入
第四章 WDCに向けて	第十四章 米岡チーム編組と新しな編み
第五章 F&C、IBM競争	第十五章 国際フル編組とリンクアップ
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本業継続日程
第八章 米岡チーム立ち上がり時の選れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の課題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働その一 直前、直前、直前の苦しみ
第十章 米岡チーム、勝たなる三人組	第二十章 稼働その二 安定稼働と北米センター稼働

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)